

大麦特報 (第2号)

平成28年11月
 なのはな農業協同組合
 富山農林振興センター

今年は大麦予定ほ場の乾きが悪く、例年よりは種作業が遅くなりました。
 今後、年内の生育量をしっかり確保するため、「排水対策」を再度確認し、
手直しを行うとともに、分施ほ場では「年内追肥」を確実に行いましょう。

排水対策の徹底

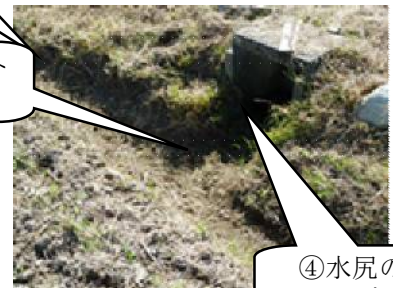
○排水対策のチェック項目

- ①縦溝と横溝をしっかりと連結する。
 ※基幹排水路もあれば連結する。
- ②溝の埋まりや浅い所を手直しする。
- ③額縁排水溝を水尻に確実に連結する。
- ④水尻を掘り下げ、雨水が円滑に排水されるようにする。

大麦は、水が溜まると根腐れ症状（湿害）が発生し、生育不良となります。ほ場内の排水状況をこまめに確認し、「排水溝の手直し」をしましょう。

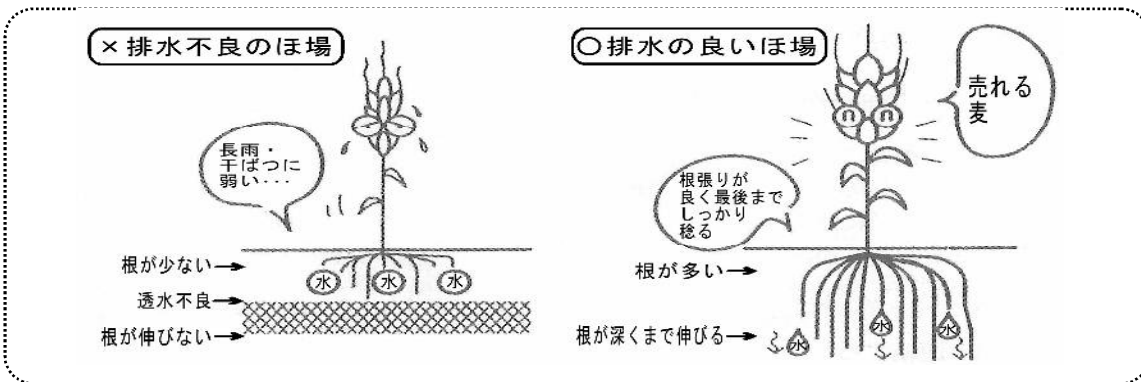


②溝が埋まっ
てないか確認



③溝の水尻へ
の連結確認

④水尻の掘り
下げ確認



播種1ヶ月後追肥の施用（分施ほ場の場合）

年内追肥は、莖数の増加を促すことで、穂数や収量を確保する重要な作業です。
播種時期に応じ、遅れないように施用しましょう。

ただし、大麦専用基肥一発肥料を使用している場合は、年内追肥の必要はありません。

【施用時期及び量の目安】

施用時期	肥料名	10aあたり施用量
播種後1ヶ月頃 (11月中旬頃)	硫安	20kg

※今後の生育状況により、年内2回目追肥の施用が必要となる場合は、特報でお知らせします。